凡　例

一　福生市史通史は上下二巻から成り、上巻には原始・古代、中世、近世、民俗編を収めた。下巻は自然、近代、現代、教育編として引き続き刊行する予定である。

一　本文は原則として常用漢字、現代仮名遣いを用い、平易な記述につとめたが、資料文や固有名詞・専門用語については旧字体をそのまま用いたところがある。特に難解な語句については振り仮名を付した。

一　本文中の引用資料は『　』「　」で資料名を示し、長文の引用は本文より二字下げとし、原則として読み下し文に改めた。

一　しばしば引用される資料の名称は、次のように略記することがある。

『武蔵田園簿』は『田園簿』に、『旧高旧領取調帳』は『旧高旧領』に、『寛政重修諸家譜』は『寛政譜』に、『新編武蔵風土記稿』は『風土記稿』に、『江戸名所図会』は『名所図会』に、『武蔵名勝図会』は『武蔵名勝』に、『記録御用所本古文書』は『記録所本』に、『神光仏言夢物語』は『夢物語』に、『玉川上水起元并野火止村引取分水口之訳書』は『上水起元』などとした。

一　『福生市史資料編』からの引用については、単に『考古』『中世』『寺社』『近世1』『民俗上』のごとく示し、

資料番号も付した。

一　図版・表については、各編ごとに通し番号を付し、別に図表目次を付けた。

一　度量衡の単位に尺貫法を用いた場合、石高以外は適宜（　）にメートル法の換算数値を示した。

一　プライバシーおよび基本的人権に関する記述にあたっては、史実にもとづく立場を堅持しつつも慎重に配慮した。資料文に使われている差別用語については、そのまま掲載したが、われわれはこれを容認するものではない。正しい歴史認識にもとづき差別を解消する方向で利用されることを望みたい。

一　人名については、一般の例によりすべて敬称を略した。ために非礼にわたった方々には御寛恕をお願いしたい。

一　本巻の記述にあたっては多くの研究者の著述、地方自治体の刊行物・報告書などを参考にしており、つとめて出典を明記するようにしたが、一般市民を対象とする自治体史の性格上省略した場合もある。